

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 斐太高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年2月8日(木) 13:30~15:30
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

会長	南 賢太郎	前育友会長
副会長	水口 浩美	高山市国府支所次長
委員	折敷地 淳	育友会長
	坂井 歩	高山自動車短期大学学長
	番場さとみ	前育友会役員
	廣田 早苗	有斐会副会長
	松井 睦子	育友会役員
	丸山 純平	高山市議会議員
	溝際清太郎	株式会社駿河屋魚一代表取締役社長(欠席)
学校側	中村 浩一	校長
	石原 秀三	事務部長
	野中 明子	教頭
	駒澤 誠二	進路支援部長
	富田 喜友	生徒支援部長
	清水 潤	特別活動部長
	中川 鉄紀	探究活動推進部長

5 会議の概要(協議事項)

- (1) 今年度の取組について報告及び来年度以降の課題について
資料を踏まえて説明のあと協議(資料:令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書)

(進路支援について)

意見1:現在の1,2年生は、中学時代にコロナ禍で就業体験がなかったため、要望が高いと聞く。本校では、インターンシップや、職業を知る機会、地域の大人と話す機会、また、目指したい大学のOBOGと話す機会はあるか。

⇒インターンシップは、夏休みに自由参加で行っている。卒業したばかりの生徒と下級生との交流の場は3月に設けているが、大学在学中または就職したOBOGとの交流は定期的には行っていない。8月に実施する東大見学では東京有斐会に協力をいただいているため、その時は交流できる。

意見2:本校の強みはOBOGの層の厚さ。連携を図ることが本校の魅力にもつながる。

⇒来年度から本校卒業生を対象に模擬試験のアルバイトを募る予定。そこで交流の機会を設けることができるかもしれない。機会をとらえ改善していきたい。

意見3:商工会議所もUターンシップ事業を進めている。積極的な連携が図れるとよい。

⇒様々な職種の話を生徒に聞かせたい。教員のインターンシップでは、県の事業としてミニ教育実習を行っており、かなりの生徒が参加して出身中学校で学習支援等をしている。

(FRH (探究的な学び) について)

- 意見4 : FRH発表会での1年次生の発表へのコメントーターの質問は探究学習を進めるうえでの本質を指摘する厳しいものであったが、学習が不足していたのか。
⇒1年次生では、探究学習に楽しみをもつことが狙いで深化には至っていなかった。1年次生としては想像以上の出来であったと考えている。
- 意見5 : 生徒が、質問されたことを前向きにとらえたのなら大変よい経験になったと思う。
⇒探究的な学びには正解がないので、この経験を次に生かすことができればよいと考える。
- 意見6 : 2年次生の発表も、もう少し深めることができるとよいと感じた。
- 意見7 : FRHを通じて、生徒は自分の興味関心について考えたり、何かしら気づいたりしている。こうした探究学習を通じて本校の生徒には、疑問をもって自分で考えて解決できる力をつけてほしい。これが、自分で進路を決めたり、学習を進めたりすることにもつながる。
- 意見8 : 今回の1年次生のFRHの取組は、2年次でも継続できるのか。
⇒1年次生は、様々なテーマで探究学習に取り組んだ。その中で、同じテーマで継続して探究する生徒もいる。
- 意見9 : コメントーターの考えを聞いて、同じテーマで探究学習を続けようとする生徒もあるとよい。ひるまず継続してほしい。
- 意見10 : 生徒が自分の興味関心に応じてテーマを設定できるところはよいが、選んだテーマや進め方を尊重しあえるような雰囲気作りも大切だと感じる。様々なテーマで探究学習を進める生徒の支援に委員が協力できることがあれば、協力していきたい。

(働き方改革について)

- 意見11 : 「働き方改革」はどのように進んでいるか。
⇒若い教員が増え、丁寧に教材研究や生徒の指導を行っていることで、昨年と比べて数字的には時間外在校時間は増えている。教育環境が激変する中、準備や研究にも時間が必要である。
- 意見12 : 若いころの苦労は、のちに役に立つことも多い。若い教員の働き方は時間数的なことよりも、働き方をどう感じるかだと考える。また、それぞれが自分は何を減らすことができるのかと考える意識も大切。建設業界では、公共工事では「働き方改革」を実現するための規則に則って工事を進めると補償があり、働き方改革を進めるきっかけにはなっている。
- 意見13 : 学校は、生徒を相手にしている、まして多様化する生徒に個々に対応することが求められているため仕事は増えているように感じる。タブレット端末など便利なツールを使って少しでも働き方改革につなげられるとよい。
⇒部活動で、岐阜方面で行われる上位大会では、移動だけで4時間かかる。こういったことも負担になっている。
- 意見14 : 有給休暇の取得率はどうか。
⇒年間最低5日の取得を促している。休めるときに休むように働きかけている。
- 意見15 : 業務量の不公平感を解消することも大切。管理職に配慮が必要なところでもある。
⇒部活動では、活動が盛んな部活ほど、従事する時間も多くなるところが悩ましい。
- 意見16 : 教員ばかりでなくどの業種でも、従事する人や場合によって効率的に業務を進めることに差があり、平準化はなかなか難しいところではある。
⇒職員が楽しく余裕をもって働けるような働き方改革を進めていきたい。

(進路指導について)

- 意見17 : 学校指定の推薦枠について、指定人数への推薦者の調整を学校で行っているのか。
⇒大学選びは、基本的には本人の意思、あるいは保護者の意見。希望する生徒がない場合は次の年度で、推薦者数が減らされることもあるが、新しく枠を設けてく

れる学校もある。

(交通安全について)

意見18：夜間の歩行者が身に付けるLEDベルトは、生徒が身を守る一助になる。このようなバンドを使うなど、交通安全では自分の身を守る方法を自分で考えることができるとよい。

意見19：ヘルメットの着用もあわせて啓発していけるとよい。

(模擬試験の外部委託について)

意見20：会場費や外部に委託した場合の費用は誰が負担するのか。市内の短期大学での実施は可能か。

意見21：大学の施設を使用することは問題ないし、学生のアルバイトでも対応できる。費用は相談することになる。

意見22：大学等入試本番のことを考えると、時には、学校以外で試験を受けるのもよい。

(朝の登校時に交通渋滞を引き起こしてしまうことについて)

意見23：交通渋滞の原因の一つは、現在、学校裏山工事の影響で東門からの登校ができず、すべての生徒が正門を利用していること。登校時だけでも東門を利用できないか。
⇒工事車両が通行する東門付近には鉄板が敷設してあり滑りやすいこともあり、生徒の通行を規制している。工事が今後数年継続する予定のため、工事開始を登校時間以降にずらしたり、鉄板の上に歩行者用のマットを敷いたりしてもらうなどの交渉を検討したい。

意見24：時差式信号の設置や道路の拡幅は実際は難しい。警察署と協議してはどうか。

⇒今年度、警察と相談して、自転車利用者の通学路を一部変更した。来年には、看護学校のところの横断歩道に自転車優先帯が設置される予定。交差点のカーブで滑りやすかったグレーチングは、高山市役所に交渉し、滑りづらい素材に変更してもらえた。

(部活動遠征で費用がかかることについて)

意見25：部活動のバスは学校で育友会等に助成を相談するなど所有することを考えてもよいのではないかと。学校で所有することは可能か。

⇒県名義での所有はできない。

意見26：所有するのは維持費や保管場所、管理等が難しい。見積もりを取ったり、年間契約をしたりすることで賃料を下げることを考えてはどうか。

※その他にも書面等で多くの意見をいただいた。

(2) 意見交流（「本校生徒に望むこと、期待すること、育てたい生徒像」）

意見27：リーダーとしての役割を担える生徒を育ててほしい。

意見28：海外での経験も大切。海外に出る方法も伝えてほしい。

意見29：学習環境を自ら整えるようになってほしい。家庭との連携が必要。

意見30：自分に自信をもって面白いと思うことを探究し続けることができる生徒。大学や社会でも探究し続ける気持ちは大切。

意見31：探究学習での設定テーマが進路研究につながるとよい。外部人材を活用してほしい。

意見32：このような時代だからこそ、倫理観を育ててほしい。

6 会議のまとめ

令和5年度、自己評価・学校関係者評価報告書をもとに、本校が抱える様々な課題について、委員にはそれぞれの立場から意見を述べていただいた。その意見について、学校側も、実際にできること、できないことを伝えたことで、より実現可能な提言へとつながった。今回の委員会では本校の探究学習も話題にあがったが、委員と教員が協働して課題解決に向かう会となり、まさしく、大人の課題探究とも言える有意義な会であった。